

氏名	于麗玲
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5013 号
学位授与の日付	平成 26 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	A Questionnaire Study on Attitudes toward Birth and Child-rearing of University Students in Japan, China, and South Korea (日本・中国・韓国における出産・育児と「優生優育」に関する意識調査)
--------	---

論文審査委員	教授 土居 弘幸 教授 片岡 仁美 准教授 塚原 宏一
--------	-----------------------------

### 学位論文内容の要旨

本研究の目的は青年層の出産・育児と「優生優育」に関する意識（「優生的傾向」）を明らかにすることである。無記名自記式の質問用紙によるアンケート調査を行った。対象者は日本、中国、韓国の4年制大学の学生である。アンケート回収率は日本 72.5%、中国 94.7%、韓国 96.5%であった。

本研究では、個々人の属性、医科学的技術へのリテラシー、子どもの資質に関する考え方の三カ国間の相関、異同などを検討した。分析は $\chi^2$ 検定を行い、有意水準は5%未満とし、調整済み残差検定を行った(本稿では三カ国比較のため4件法の回答を2分割で分析した)。望む子どもの資質を獲得する手段に関して「精子バンクを利用してでも、優れた資質の子どもを持ちたい」と思うかとの設問に対する肯定的な回答の割合は、日本 5.8%、中国 60.1%、韓国 81.7%であった。「卵子バンクを利用してでも、優れた資質の子どもを持ちたい」と思うかとの設問に対する肯定的な回答の割合は、日本 5.3%、中国 47.2%、韓国 70.3%であった。

以上二つの場合すべてにおいて、肯定的な回答の割合は日本に比べて韓国と中国が有意に高かった( $P<0.001$ )。今回の調査では、日本・中国・韓国の学生の間で、①子どもの資質を獲得する手段、②出生前診断、③着床前診断、④妊娠期・育児期の環境などについて意識（「優生的傾向」）の違いが多々あることが明らかになった。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、「優生優育」に関する意識調査を日本・中国・韓国の大学生に対しアンケートにより行ったものである。出生前診断、着床前診断に関する意識調査では、子どもの優性的資質をどう選択するかという意識の相違が、3か国で顕著に異なり、国家政策或いは、社会の実情を如実に反映した結果となっていると思料された。

得られた意識調査結果の背景因子の研究、欧米との比較など、今後の更なる研究の発展を期待できるインパクトのある研究である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。